

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部 港湾課
評価対象期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	別府港北浜ヨットハーバー	施設種別	港湾・公営住宅
	所在地	別府市北浜1丁目818-386		
	設置目的	海洋性レクリエーションの振興及び、別府港内の不法係留船の適正保留のため		
指定管理者	名称	株式会社ササキコーポレーション		
	代表者名	佐々木 勝吉		
	所在地	山口県宇部市港町1丁目13-5		
指定管理業務の内容	①北浜ヨットハーバーの使用許可(工作物の設置を伴うものを除く)に関する事。 ②北浜ヨットハーバーの利用促進に関する事。 ③北浜ヨットハーバーの維持管理及び修繕に関する事。 ④上記に掲げるもののほか、知事が特に必要と認める業務。			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成28年4月1日～令和3年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み (1)施設の設置目的の達成 ①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。 ②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。 【所見】 ○係船率については、H29年度:73%(目標60%)、H30年度:79%(目標63%)、R1年度:84%(目標66%)、R2年度:96%(目標70%)と各年度目標を大幅に上回った。 ○毎年度、九州UMIアカデミーを開催し、小中学生を対象にしたシーカヤック体験など海洋性レクリエーションの振興に積極的に取り組んでいる。参加者については、H28年度からR2年度まで計223名の参加があり、R2年度は92人の参加と過去最多の参加人数となった。 ○九州UMIアカデミー実施による施設の広報や他マリナー等での周知活動により、係船率の大幅な上昇につながった。

(2) 利用者の満足度
①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。
②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。
③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。
④利用者への情報提供が十分になされたか。
⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
<p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3月に施設利用者(44名)に対して行ったアンケート結果によると、スタッフの対応については概ね良い以上の評価が9割を超えている。 ○ R2年度に利用者から情報掲示板の設置要望があり、指定管理者のHP上へ掲載した。 ○ 可燃物・リサイクルゴミの回収や、不燃物ゴミ・オイルなど産業廃棄物の受入を始めた。 ○ 観光時の移動手段がほしいとの要望があり、レンタカーのサービスを開始した。
2 効率性の向上等に関する取組み
(1) 経費の低減等
①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。
<p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 最小限のスタッフで施設の管理運営が効率的に行われている。以前はフォークリフトの操作を外部委託していたが、現指定管理者はフォークリフト運転技能資格をもつスタッフを有しており、委託料の経費を削減できている。 ○ R2年度に係船率の向上を図るため1名増員しているが、嘱託職員を採用することで人件費を可能な限り抑えている。 ○ 新電力に切り替えるなど経費の削減を図っている。
(2) 収入の増加
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
<p>【所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 使用料収入については、九州UMIアカデミーをはじめとした様々な取組により平成29年度:15,539千円、平成30年度:17,173千円、令和元年度18,151千円、令和2年度21,000千円と年々増加している。指定管理制度導入前の平成27年度の使用料収入12,213千円と比較すると、令和2年度は172%となっている。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

- ①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。
- ③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

- 人員は業務状況に応じて適切に配置されており、ゴールデンウィークや夏期休暇期間は増員するなど合理的な管理運営が行われている。(館長1名、スタッフ4名の計5名体制)
- 船舶の引揚げに必要なフォークリフト操縦資格の取得推進に加え、安全講習会の開催など職員の資質・能力向上に努めている。
- 九州UMIアカデミーに参加した生徒を大分県セーリング連盟ジュニア部に紹介するなどマリンスポーツの振興に努め、関係団体との連携を図っている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。
- ⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。
- ⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

【所見】

- 関係法令の遵守はもとより、個人情報保護条例や指定管理者が定めるマニュアルに基づき適正な管理を行っており、個人情報の漏洩等の事故は発生していない。
- 毎月全職員を対象としたヒヤリハットミーティングを開催するなど、危機管理意識の共有を図ることで事故防止に努めている。
- 施設利用者の本人確認とリストへの記帳を徹底することで不審者の侵入を未然に防止している。
- 避難訓練を実施し、防災意識の向上に努めている。

【総合評価】

【所見】

- 九州UMIアカデミー実施による施設の広報や他マリーナ等での周知活動により、目標指標の係船率を大幅に上回るなど実績は良好である。
- フォークリフト運転技能講習やヒヤリハットミーティング等を通じ、職員の危機管理意識能力向上に努めている。
- 九州UMIアカデミーの開催や大分県セーリング連盟との連携などマリンスポーツの振興を図るとともに、積極的な広報活動を努めており、管理者のノウハウを活かした管理運営が行われている。

【今後の対応】

- 管理運営については、自主事業や地域連携事業等により、さらなる係船率の増加とマリンスポーツの振興を期待したい。